

食品安全情報（微生物） No.17 / 2022（2022.08.17）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

目次

[【米国疾病予防管理センター（US CDC）】](#)

1. アイスクリームに関連して複数州にわたり発生しているリステリア（*Listeria monocytogenes*）感染アウトブレイク（2022年8月4日付更新情報）
2. 小規模飼育の家禽類との接触に関連して複数州にわたり発生しているサルモネラ（*Salmonella* Enteritidis、*S. Hadar*、*S. I 4,[5],12:i:-*、*S. Indiana*、*S. Infantis*、*S. Typhimurium*、*S. Mbandaka*）感染アウトブレイク（2022年8月12日付更新情報）
3. 乳幼児用調製粉乳に関連して報告されたクロノバクター（*Cronobacter*）感染症を調査（2022年5月24日付更新情報）

[【カナダ公衆衛生局（PHAC）】](#)

1. 国外旅行に関連していないサイクロスポラ感染を調査中（2022年8月11日付更新情報）

[【欧州委員会健康・食品安全総局（EC DG-SANTE）】](#)

1. 食品および飼料に関する早期警告システム（RASFF：Rapid Alert System for Food and Feed）

[【アイルランド保健サーベイランスセンター（HPSC Ireland）】](#)

1. アイルランドの抗菌剤耐性に関して欧州抗菌剤耐性サーベイランスネットワーク（EARS-Net）から得られた最新のデータおよび傾向（2016～2020年）

[【ドイツ連邦リスクアセスメント研究所（BfR）】](#)

1. ドイツ連邦リスクアセスメント研究所（BfR）が「世界食品安全年鑑（World Food Safety Almanac）」をインターネット上に公開

[【ProMED-mail】](#)

1. コレラ、下痢、赤痢最新情報（27）

【各国政府機関】

- 米国疾病予防管理センター (US CDC: Centers for Disease Control and Prevention)

<https://www.cdc.gov/>

1. アイスクリームに関連して複数州にわたり発生しているリステリア (*Listeria monocytogenes*) 感染アウトブレイク (2022年8月4日付更新情報)

Listeria Outbreak Linked to Ice Cream

August 4, 2022

<https://www.cdc.gov/listeria/outbreaks/monocytogenes-06-22/index.html>

<https://www.cdc.gov/listeria/outbreaks/monocytogenes-06-22/details.html> (Investigation Details)

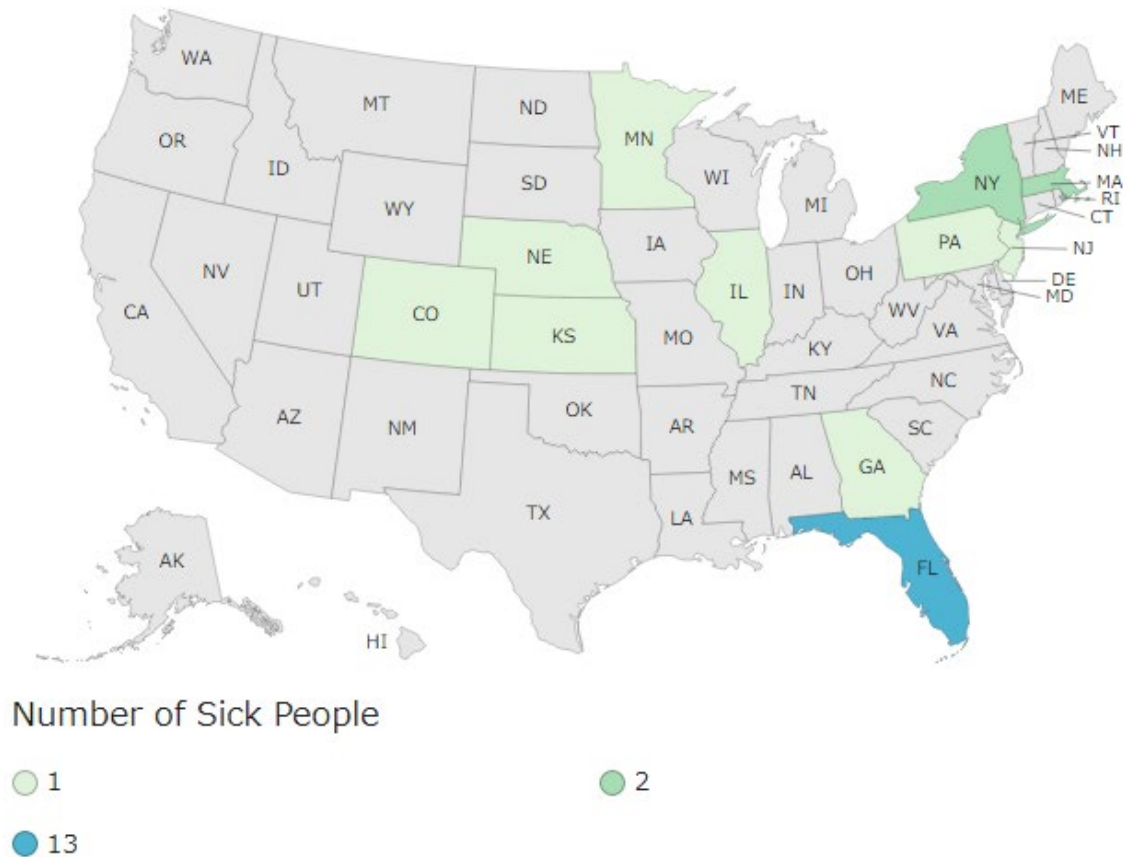
<https://www.cdc.gov/listeria/outbreaks/monocytogenes-06-22/map.html> (Map)

フロリダ州保健局 (FDH)、フロリダ州農業・消費者サービス局 (FDACS)、米国疾病予防管理センター (US CDC)、複数州の公衆衛生・食品規制当局および米国食品医薬品局 (US FDA) は、アイスクリームに関連して複数州にわたり発生しているリステリア (*Listeria monocytogenes*) 感染アウトブレイクを調査するため様々なデータを収集している。

○ 疫学データ

2022年7月13日付更新情報以降、新たな患者が2人報告された。2022年8月2日時点で、*L. monocytogenes* アウトブレイク株感染患者が11州から計25人報告されている(図)。患者のうち13人はフロリダ州の居住者であり、10人は発症前にフロリダ州に旅行していたことを報告した。患者の発症日は2021年1月24日～2022年6月24日である。

図：リステリア (*Listeria monocytogenes*) 感染アウトブレイクの居住州別患者数 (2022 年 8 月 4 日時点、n=25) *



* 患者のうち 13 人はフロリダ州の居住者であり、10 人は発症前にフロリダ州に旅行していた。

患者の年齢範囲は 1 歳未満～92 歳、年齢中央値は 72 歳で、56%が男性である。患者 25 人全員から入院に関する情報が得られ、このうち 24 人が入院した。妊娠していなかった患者 1 人の死亡がイリノイ州から報告されている。患者 5 人は妊娠中に感染し、このうち 1 人は感染が原因で流産した。

各州の公衆衛生当局は、患者が発症前に喫食した食品に関する聞き取り調査を継続している。聞き取りが実施された患者 21 人は全員 (100%) がアイスクリームの喫食を報告した。喫食したアイスクリームの種類に関する詳細を覚えていた患者 17 人のうち 12 人が、「Big Olaf Creamery」ブランドのアイスクリームの喫食、または Big Olaf Creamery 社からアイスクリームが供給された可能性がある店舗でのアイスクリームの喫食を報告した。患者 8 人は、本アウトブレイクの 3 つの患者クラスターの一部であることが特定された。本アウトブレイクの患者クラスターの定義は、発症前に同じ小売店舗で提供された食品を

喫食していたことを報告し、かつ同居していない 2 人以上の患者である。相互に関連のない複数の患者が同じ小売店舗で提供された食品を喫食していた場合、当該店舗で汚染食品が提供・販売されていたことが示唆される。3 つの患者クラスターはすべて「Big Olaf Creamery」ブランドのアイスクリームを販売している小売店舗に関連していた。

○ 検査機関での検査データ

FDACS は、フロリダ州 Sarasota にある Big Olaf Creamery 社の施設のアイスクリーム製造区域からアイスクリーム検体および環境検体を採取し、これらの検体について全ゲノムシーケンシング (WGS) 解析を実施した。FDH は、アイスクリーム由来検体および環境由来検体からリステリアアウトブレイク株を検出した。

○ 公衆衛生上の措置

2022 年 7 月 13 日、Big Olaf Creamery 社は、「Big Olaf Creamery」ブランドのアイスクリームのうち賞味期限が 2022 年 6 月 30 日までのすべての製品の回収を開始した。FDACS は取引停止命令を発出し、Big Olaf Creamery 社は現在アイスクリームを製造していない。

(食品安全情報 (微生物) No.15 / 2022 (2022.07.20) 、No.14 / 2022 (2022.07.06) US CDC 記事参照)

2. 小規模飼育の家禽類との接触に関連して複数州にわたり発生しているサルモネラ (*Salmonella* Enteritidis、*S. Hadar*、*S. I 4,[5],12:i:-*、*S. Indiana*、*S. Infantis*、*S. Typhimurium*、*S. Mbandaka*) 感染アウトブレイク (2022 年 8 月 12 日付更新情報)

Salmonella Outbreaks Linked to Backyard Poultry

August 12, 2022

<https://www.cdc.gov/salmonella/backyardpoultry-06-22/index.html>

<https://www.cdc.gov/salmonella/backyardpoultry-06-22/details.html> (Investigation Details)

<https://www.cdc.gov/salmonella/backyardpoultry-06-22/map.html> (Map)

米国疾病予防管理センター (US CDC) および複数州の公衆衛生当局は、複数州にわたり発生しているサルモネラ (*Salmonella* Enteritidis、*S. Hadar*、*S. I 4,[5],12:i:-*、*S. Indiana*、*S. Infantis*、*S. Typhimurium*、*S. Mbandaka*) 感染アウトブレイクを調査するため様々なデータを収集している。

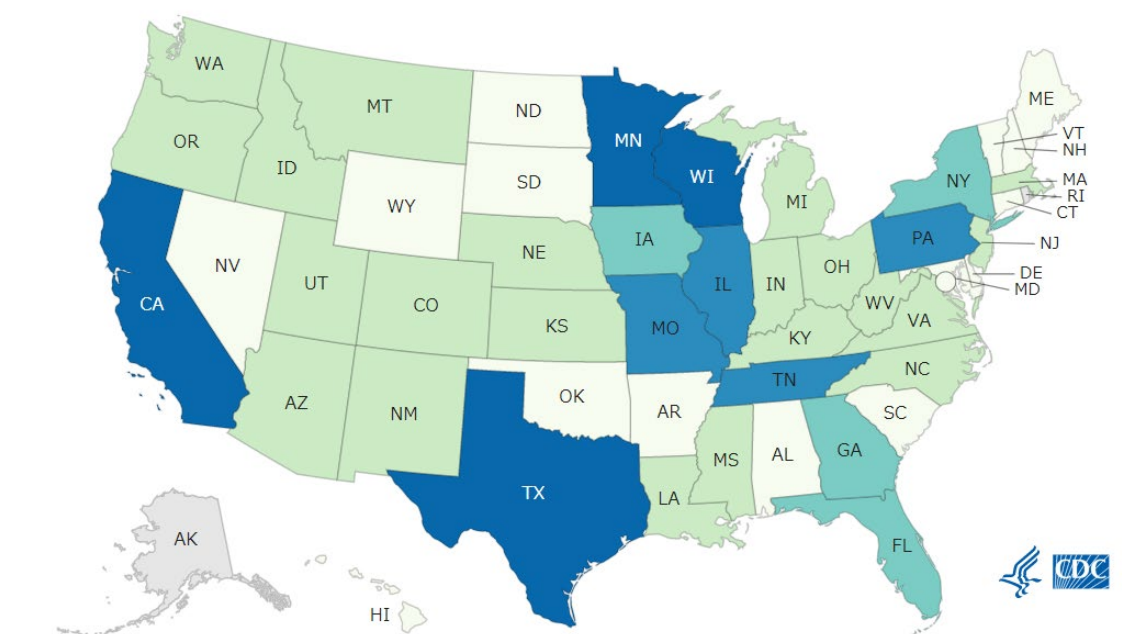
疫学データおよび検査機関での検査データは、小規模飼育の家禽類との接触が本アウトブレイクの患者の感染源であることを示している。2022 年 7 月 13 日付更新情報以降に、

新たな 2 種類の血清型 (*S. I 4,[5],12:i:-*、*S. Indiana*) および新規患者 312 人が報告された。

○ 疫学データ

2022 年 8 月 1 日時点で、サルモネラ (*S. Enteritidis*、*S. Hadar*、*S. I 4,[5],12:i:-*、*S. Indiana*、*S. Infantis*、*S. Typhimurium*、*S. Mbandaka*) アウトブレイク株のいずれかに感染した患者計 884 人が 48 州およびワシントン D.C.から報告されている (図)。患者の発症日は 2022 年 2 月 3 日～7 月 23 日である。

図：サルモネラ (*Salmonella Enteritidis*、*S. Hadar*、*S. I 4,[5],12:i:-*、*S. Indiana*、*S. Infantis*、*S. Typhimurium*、*S. Mbandaka*) 感染アウトブレイクの居住州別患者数 (2022 年 8 月 12 日時点の計 884 人)



Number of Sick People



患者の年齢範囲は 1 歳未満～102 歳、年齢中央値は 32 歳で、患者のうち 191 人 (22%) が 5 歳未満の小児である。性別に関する情報が得られた患者 866 人のうち 475 人 (55%) が女性である。転帰に関する情報が得られた患者 503 人のうち 158 人 (31%) が入院した。計 2 人の死亡者がテネシー州およびワイオミング州から 1 人ずつ報告されている。

各州・地域の公衆衛生当局は、患者が発症前 1 週間に喫食した食品および接触した動物に関する聞き取り調査を行っている。聞き取りが実施された患者 430 人のうち、269 人

(63%) が小規模飼育の家禽類との接触を報告した。喫食に関する情報が得られた患者 311 人のうち、80 人 (26%) が小規模飼育の家禽類の卵の喫食を、12 人 (4%) が同じく肉の喫食を報告した。

小規模飼育の家禽類の購入に関する情報が得られた患者 303 人のうち、169 人 (56%) が 2022 年 1 月 1 日以降に購入したと報告し、31 人が複数の店舗で家禽類を購入していた。患者が報告した家禽類の購入先は、41 州の計 177 カ所の小売店舗であった。

○ 検査機関での検査データ

ノースダコタ、ニューメキシコ、テネシーおよびウィスコンシンの各州の公衆衛生当局は、小売店舗および患者の自宅で採取した家禽類とその飼育環境由来検体から数種類のアウトブレイク株を検出した。

患者由来 882 検体、家禽類由来 10 検体および家禽類の飼育環境由来 12 検体から分離されたサルモネラ株について、抗生物質耐性の存在を予測するため WGS (全ゲノムシーケンシング) 解析が実施された。その結果、計 904 株のうち 367 株 (40.6%) について、アモキシシリン/クラバン酸 (0.3%)、アンピシリン (2.3%)、セフォキシチン (0.3%)、セフトオフル (0.3%)、セフトリアキソン (0.3%)、クロラムフェニコール (0.1%)、シプロフロキサシン (17.4%)、ゲンタマイシン (0.8%)、カナマイシン (0.2%)、ナリジクス酸 (17.4%)、ストレプトマイシン (19.2%)、スルファメトキサゾール (2.5%)、テトラサイクリン (20.4%) およびトリメトプリム/スルファメトキサゾール (1.9%) のうちの 1 種類以上の抗生物質への耐性が予測された。これらの結果は、患者由来 3 検体から分離された株について CDC の全米抗菌剤耐性モニタリングシステム (NARMS) 検査部門が標準的な抗生物質感受性試験法を用いて行った検査の結果により確認された (ストレプトマイシン、カナマイシンおよびセフトオフルは試験対象外)。

サルモネラ症患者のほとんどは抗生物質を使用せずに回復する。しかし、抗生物質が必要になった場合、本アウトブレイクの一部の患者については、一般的に推奨される抗生物質による治療が困難になる可能性があり、別の抗生物質の選択が必要になることがある。

○ 公衆衛生上の措置

CDC は小規模飼育の家禽類の所有者に対し、自分自身の健康を保つため家禽類取扱い時の衛生手順 (以下 Web ページ参照) を遵守するよう繰り返し注意喚起を行っている。

<https://www.cdc.gov/salmonella/backyardpoultry-06-22/index.html#steps>

CDC は家禽類を販売する孵化場や小売店と協力し、家禽類を初めて所有する人への啓発および孵化場でのサルモネラ伝播防止に取り組んでいる。

(食品安全情報 (微生物) No.15 / 2022 (2022.07.20) 、No.13 / 2022 (2022.06.22) US CDC 記事参照)

3. 乳幼児用調製粉乳に関連して報告されたクロノバクター (*Cronobacter*) 感染症を調査 (2022年5月24日付更新情報)

Cronobacter and Powdered Infant Formula Investigation

Updated May 24, 2022

<https://www.cdc.gov/cronobacter/outbreaks/infant-formula.html>

米国疾病予防管理センター (US CDC) は、乳幼児用調製粉乳に関連して報告されたクロノバクター (*Cronobacter*) 感染症に関する調査の更新情報を発表した。

2022年5月24日付最終更新

CDC の調査は終了した。2022年3月25日付更新情報以降、本調査の対象となる新たな患者は特定されていない。CDC は各州・地域の保健部門に対し、乳幼児のクロノバクター感染患者に関する CDC への報告を電子メールで継続するよう促している。本件に関する米国食品医薬品局 (US FDA) による調査、クロノバクター感染の予防、乳幼児用調製粉乳の安全な調乳・保存方法などに関する情報は、以下の各 Web ページから入手可能である。

<https://www.fda.gov/food/outbreaks-foodborne-illness/fda-investigation-cronobacter-infections-powdered-infant-formula-february-2022> (FDA の調査に関する情報)

<https://www.cdc.gov/cronobacter/infection-and-infants.html> (乳幼児のクロノバクター感染と乳幼児用調製粉乳などに関する情報)

○ 患者の概要

2022年2月10日、CDC は、Abbott Nutrition 社製 (ミシガン州 Sturgis の施設で製造) の調製粉乳に関連した乳幼児の疾患に関する消費者からの苦情について、FDA が調査を行っているとの通知を受けた。

最新の調査結果の詳細は以下の通りである。

CDC は、2021年9月16日～2022年1月5日に乳幼児のクロノバクター (*Cronobacter sakazakii*) 感染患者計3人の発生に関する報告を受け、その後、これらの患者は FDA が継続中の調査の対象に含まれていることが明らかになった。2022年2月16日、CDC は、臨床医および州・地域の保健部門に対し、乳幼児用調製粉乳に関連した2020年11月以降のその他のクロノバクター感染患者について情報提供を要請した。その後 CDC は、Abbott Nutrition 社のミシガン州 Sturgis の施設で製造された調製粉乳を喫飲した乳児でクロノバクターに感染した患者1人を新たに特定した。

患者について以下の情報が得られた。

- ・ クロノバクター感染患者 4 人はミネソタ州 (1 人)、オハイオ州 (2) およびテキサス州 (1) に居住し、ミシガン州 Sturgis の施設で製造された調製乳を発症前に喫飲していた。
- ・ これらの患者が喫飲した調製乳は、「Similac Sensitive」、「Similac Pro-total Comfort」、「Similac Advance」、「Similac PM 60/40」などであった。
- ・ クロノバクター感染がオハイオ州の患者 2 人の死亡原因となった可能性がある。

CDC は、患者由来 2 検体から分離されたクロノバクター株について、Abbott Nutrition 社の当該製造施設で採取された環境検体由来株との比較を行い、関連の有無を明らかにするため、全ゲノムシーケンシング (WGS) 解析を行った。

CDC は、これらの 2 検体に関する検査機関での検査を既に完了している。WGS 解析の結果、これらの 2 検体由来の株が当該施設の環境検体由来の複数のクロノバクター株と遺伝学的に近縁であることは示されず、また、これらの患者由来株が相互に近縁ではないことが示された。本調査の過程において FDA は当該施設から製品検体を追加採取し、解析を続けている。

FDA には、当該施設で製造された乳幼児用調製乳を喫飲した乳幼児 1 人のサルモネラ感染に関する苦情が 1 件報告された。しかしながら、この患者と回収対象の乳幼児用調製乳との関連を特定するための十分な情報は得られていない。CDC は、この 1 人のサルモネラ感染患者が関連しているアウトブレイクはないことを確認した。CDC は、州・地域の当局と協力し、乳幼児用調製乳に関連したサルモネラ感染患者に関するモニタリングを続けている。

(食品安全情報 (微生物) No.12/2022 (2022.06.08)、No.11/2022 (2022.05.25)、No.10/2022 (2022.05.11)、No.8/2022 (2022.04.13) US FDA、No.7/2022 (2022.03.30)、No.6/2022 (2022.03.16) US FDA、US CDC 記事参照)

● カナダ公衆衛生局 (PHAC: Public Health Agency of Canada)

<https://www.phac-aspc.gc.ca>

国外旅行に関連していないサイクロスポラ感染を調査中 (2022 年 8 月 11 日付更新情報)

Non-travel related *Cyclospora* infections under investigation

August 11, 2022

<https://www.canada.ca/en/public-health/services/public-health-notice.html>

2022年8月11日までに、サイクロスポラ症患者計283人がアルバータ州（1人）、ブリティッシュ・コロンビア州（3）、ニューファンドランド・ラブラドール州（3）、オンタリオ州（232）およびケベック州（44）から報告され、調査が行われている。患者11人が入院し、死亡者は報告されていない。患者のうち132人が男性、150人が女性、1人は性別が不明であり、患者の年齢範囲は1～90歳である。回収は実施されておらず、公衆衛生通知は発表されていない。

カナダでは毎年、旅行と関連のないサイクロスポラ症患者のカナダ公衆衛生局（PHAC）への報告数が春季および夏季に増加する。PHACは公衆衛生・食品安全当局と協力し、感染経路を調査している。過去の事例では、包装済みミックスサラダ、バジル、シラントロ（コリアンダー）、ベリー類、レタス、サヤエンドウ、スナックエンドウなどの様々な種類の輸入生鮮農産物がサイクロスポラ症患者に関連していた。

（食品安全情報（微生物）No.16/2022（2022.08.03）、No.14/2022（2022.07.06）PHAC記事参照）

● 欧州委員会健康・食品安全総局（EC DG-SANTE: Directorate-General for Health and Food Safety）

https://ec.europa.eu/info/departments/health-and-food-safety_en

食品および飼料に関する早期警告システム（RASFF : Rapid Alert System for Food and Feed）

https://ec.europa.eu/food/safety/rasff_en

RASFF Portal Database

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/portal/>

Notifications list

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/screen/list>

2022年7月28日～8月10日の主な通知内容

警報通知 (Alert Notification)

オランダ産子牛塊肉（マリネ液漬け）のサルモネラ、オランダ産ワカメサラダの E 型肝炎ウイルス、スペイン産冷凍七面鳥ドラムスティック肉のサルモネラ、フランス産羊乳チーズのリステリア（*L. monocytogenes*）、ドイツ産ゴータチーズのリステリア（*L. monocytogenes*）、トルコ産タヒニハルヴァのサルモネラ（group C）、オランダ産フムスのリステリア、インド産乾燥フェヌグリークリーフのサルモネラ（*S. Reading*）、フランス産ローストターキー（ベーコン包み）のサルモネラ属菌、イタリア産ハムのリステリア（*L. monocytogenes*）、フランス産チキンナゲットのリステリア（*L. monocytogenes*、<10 CFU/g）、スペイン産ひき肉ステーキ（ハラール対応）のサルモネラ属菌など。

注意喚起情報 (Information Notification for Attention)

ルーマニア産ひき肉（家禽以外）のサルモネラ属菌、ポーランド産角切り鶏生肉のサルモネラ（*S. Enteritidis*）、ポーランド産（ドイツ経由）スモークサーモン（スライス）のリステリア（*L. monocytogenes*）、スロバキア産 RTE 食品のリステリア（*L. monocytogenes*）、イタリア産水牛モッツァレラチーズのカビとシュードモナス属菌（pseudomonads）、タイ産加熱済み鶏むね肉（細切り）のリステリア（*L. monocytogenes*）、ハンガリー産七面鳥肉のサルモネラ（*S. Typhimurium*）、イタリア産チーズによるリステリア（ST155）アウトブレイク、エクアドル産冷凍生エビのビブリオ（*V. vulnificus*）、ポーランド産鶏首皮のサルモネラ（*S. Enteritidis*, C1）、オランダ産ひき肉（家禽肉以外）の志賀毒素産生性大腸菌（*stx+*、*ea+*）、ニュージーランド産冷蔵ラム脚肉の腐敗と細菌汚染、イタリア産馬肉の志賀毒素産生性大腸菌（*stx+*、*ea+*）トルコ産タヒニのサルモネラ属菌など。

フォローアップ喚起情報 (Information Notification for follow-up)

オランダ産ペストリーのカビ、ドイツ産ダンプリング（鶏肉・牛肉入り）のサルモネラ、オランダ産菜種搾油ミールのサルモネラ属菌、スロベニア産鶏肉ミール（カテゴリー3 動物副産物）のサルモネラ属菌、ベルギー産乳の微生物による腐敗、スロベニア産加工動物タンパク質（家禽類由来）のサルモネラ、中国産有機大豆圧搾油粕のサルモネラ属菌、ニュージーランド産冷蔵ラムステーキ（ランプ肉）の志賀毒素／ベロ毒素産生性大腸菌（STEC/VTEC）と腸管出血性大腸菌（EHEC）、ドイツ産ハーブティーのサルモネラ、ブラジル産（オランダ経由）イヌ用餌の腸内細菌科菌群など。

通関拒否通知 (Border Rejection Notification)

ブラジル産鶏肉のサルモネラ属菌、ナイジェリア産ゴマ種子のサルモネラ、タイ産家禽肉製品のサルモネラ、スーダン産ゴマ種子のサルモネラ、エチオピア産ゴマ種子のサルモネラ、中国産冷凍加熱済みザリガニのサルモネラ、トルコ産粉末ローレルのサルモネラ属菌など。

● アイルランド保健サーベイランスセンター (HPSC Ireland: Health Protection Surveillance Centre, Ireland)

<https://www.hpsc.ie/>

アイルランドの抗菌剤耐性に関して欧州抗菌剤耐性サーベイランスネットワーク (EARS-Net) から得られた最新のデータおよび傾向 (2016~2020 年)

The latest data and trends on antimicrobial resistance data in Ireland from EARS-Net, 2016-2020

Epi-Insight, Volume 23, Issue 3, May 2022

<https://ndsc.newsweaver.ie/4otaa688p3/13vlcrshfpw>

アイルランドは欧州抗菌剤耐性サーベイランスネットワーク (EARS-Net) に参加しており、1999 年に抗菌剤耐性データの収集を開始した。2020 年はアイルランド国内の微生物検査機関 38 機関のうち 36 機関からデータが得られ、これは同国人口の約 93%をカバーしている。残り 2 機関は、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響による職員の就業問題により 2020 年のデータを提出できなかった。

EARS-Net の対象になっている 8 種類すべての病原体に関して、2020 年には計 5,506 分離株のデータが報告され、これは 2019 年 (6,665 株) より少なかった。2016~2020 年の 5 年間に継続してデータを報告した 34 検査機関のみで比較すると、分離株数は 10%の減少である。病原体別にみると 6 種類の病原体で減少し、範囲は緑膿菌 (*Pseudomonas aeruginosa*) の 4%減少から肺炎球菌 (*Streptococcus pneumoniae*) の 49%減少であった。一方、エンテロコッカス・フェシウム (*Enterococcus faecium*) および腸球菌 (*E. faecalis*) では、それぞれ 10%および 9%増加していた。しかし、欧州連合/欧州経済領域 (EU/EEA) 全体では、肺炎球菌を除くすべての病原体で増加していた。

表 1 は、サーベイランス対象の各病原体について、重要な抗菌剤耐性に関する 2016~2020 年のデータを要約したものであり、有意な変動は矢印の「↑」および「↓」で示されている。

全データをまとめた表が以下の Web ページから入手可能である。

[https://www.hpsc.ie/a-z/microbiologyantimicrobialresistance/europeanantimicrobialresistancesurveillancesystemearss/ears-netdataandreports/EARS-Net%20National%20Summary 2016-2020 20220325.pdf](https://www.hpsc.ie/a-z/microbiologyantimicrobialresistance/europeanantimicrobialresistancesurveillancesystemearss/ears-netdataandreports/EARS-Net%20National%20Summary%202016-2020%20220325.pdf)

重要な抗菌剤耐性に関するアイルランドのデータには、注目すべき少数の例外はあるが、多くの項目で当該 5 年間に有意な変動は見られなかった。

表 1：欧州抗菌剤耐性サーベイランスネットワーク（EARS-Net）のアイランド関連の病原体・年別データの要約

Table 1. Summary of EARS-Net data by pathogen and year

Pathogen	Year					% Trends 2016-2020
	2016	2017	2018	2019	2020‡	
Number laboratories by year-end	38	37	39	38	36	
%Coverage of population	97%	99%	100%	100%	93%	
<i>E. coli</i>						
Number of isolates	2988	3124	3240	3439	2795	
%3GC-R*	11.3%	12.0%	12.9%	12.4%	11.7%	
%Ciprofloxacin-R*	22.8%	23.7%	24.1%	20.6%	19.4%	↓
%Carbapenem†-R*	0.1%	0.2%	0.1%	0.0%	0.3%	
%MDR*	5.4%	5.9%	6.2%	6.0%	5.1%	
<i>S. aureus</i>						
Number of isolates	1142	1153	1188	1186	988	
Number Meticillin-R (or MRSA)	164	186	147	144	113	
%Meticillin-R (or MRSA)	14.4%	16.1%	12.4%	12.1%	11.5%	↓
<i>K. pneumoniae</i>						
Number of isolates	453	479	483	543	478	
%3GC-R*	13.5%	14.6%	14.5%	17.5%	18.0%	↑
%Ciprofloxacin-R*	11.5%	15.9%	18.6%	17.5%	16.8%	↑
%Carbapenem†-R*	0.9%	0.6%	0.6%	1.1%	1.7%	
%MDR*	5.8%	6.1%	8.5%	5.9%	7.6%	
<i>E. faecium</i>						
Number of isolates	423	442	419	459	463	
%Vancomycin-R (VREfm)	44.3%	38.2%	40.2%	38.6%	35.1%	↓
<i>E. faecalis</i>						
Number of isolates	290	340	332	310	303	
%Vancomycin-R (VREfa)	0.7%	0.6%	0.6%	0.3%	1.0%	
<i>S. pneumoniae</i>						
Number of isolates	363	412	455	372	179	
%Penicillin-Non-WT*	16.6%	15.8%	20.7%	14.0%	17.3%	
of which: %R	0.0%	1.0%	1.3%	0.8%	0.0%	
%I	16.5%	14.8%	19.3%	13.2%	17.3%	
<i>P. aeruginosa</i>						
Number of isolates	244	288	273	289	247	
%MDR*	7.6%	8.2%	2.8%	4.3%	2.5%	↓
<i>Acinetobacter spp.</i>						
Number of isolates	68	66	62	67	53	
%Imipenem/meropenem-R*	0.0%	6.3%	1.7%	1.6%	0.0%	
%MDR*	0.0%	1.7%	0.0%	1.9%	0.0%	
TOTAL EARS-NET PATHOGENS	5971	6304	6452	6665	5506	

*：すべての分離株で検査が行われたわけではない。

‡：2020年は2検査機関がデータを報告しなかった。

†：カルバペネム系抗菌剤には、イミペネム、メロペネムおよびエルタペネムが含まれる。

R：耐性

Non-WT：非野生型（中間耐性（Intermediate）、増加曝露量への耐性（I: Increased Exposure）、耐性（R）の分離株を含む）

太字の数値：分離株数

イタリック体：割合（％）

MRSA：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

VREfm：バンコマイシン耐性エンテロコッカス・フェシウム

3GC：第三世代セファロスポリン系抗菌剤（セフォタキシム、セフトリアキソン、セフトラジジムを含む）

MDR：多剤耐性

「↓」、「↑」：有意な低下・上昇の変動

○ 耐性率が低下傾向にある病原体

・メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（**MRSA**）

MRSA の割合は、2016 年の 14.4%から 2020 年には 11.5%へと有意に低下し、これは 1999 年のサーベイランス開始以来最も低かった。**MRSA** の割合は、2006 年に最高値である約 42%を示した後、着実に低下している。**EARS-Net** 加盟国全体でも **MRSA** の割合は低下しており（当該 5 年間に有意な変動）、**EU/EEA** の重み付け平均は 16.7%であった。割合が最も高いのは南欧諸国である。

・バンコマイシン耐性エンテロコッカス・フェシウム（**VREfm**）

VREfm の割合は、2016 年の 44.3%から 2020 年には 35.1%に低下し、これは 2008 年以降で最も低かった。一方、欧州全体では上昇しており（当該 5 年間に有意な変動）、**EU/EEA** の重み付け平均は 16.8%であった。**VREfm** の割合について、アイルランドは低下傾向にあるものの、欧州全体においては、東欧諸国と並んで最も割合が高い国の 1 つである。

○ 耐性率が上昇傾向にある病原体

・第三世代セファロスポリン系抗菌剤耐性（**3GC-R**）肺炎桿菌（*Klebsiella pneumoniae*）

3GC-R 肺炎桿菌の割合は、2016 年の 13.5%から 2020 年には 18.0%へと有意に上昇した。**EU/EEA** では、**3GC-R** 肺炎桿菌の割合は当該 5 年間に有意な変化は見られない。アイルランドの **3GC-R** 肺炎桿菌の割合は上昇傾向にあるが、**EU/EEA** の重み付け平均の 33.9%より依然として低い。

○ アイルランド以外の **EARS-Net** 加盟国における重要な傾向または調査結果

・カルバペネム耐性肺炎桿菌（**CRKP**）

CRKP の割合は、**EU/EEA** では当該 5 年間に上昇傾向にあるが、アイルランドでは依然

として極めて低い (≤1%)。CRKP は南欧諸国において最も大きな抗菌剤耐性問題となっており、CRKP の割合はギリシャが 66.3%およびイタリアが 29.5%で、EARS-Net で報告される全ての CRKP 分離株の約 75%をこの 2 国が占めている。

- ・カルバペネム耐性アシネトバクター (CRA)

CRA は、東欧および南欧の多くの国で大きな問題となっている。アイルランドでは 2020 年の CRA の割合は 0%であったが、EU/EEA の重み付け平均は 38.0%であった。11 カ国が 60%を超える CRA の割合を報告した。世界保健機関 (WHO) が新規治療薬の研究開発に関して、アシネトバクター属菌 (特にアシネトバクター・バウマニ (*Acinetobacter baumannii*)) のカルバペネム耐性を最重要問題の 1 つに挙げているのも当然である。

-
- ドイツ連邦リスクアセスメント研究所 (BfR: Bundesinstitut für Risikobewertung)
<https://www.bfr.bund.de/>

ドイツ連邦リスクアセスメント研究所 (BfR) が「世界食品安全年鑑 (World Food Safety Almanac)」をインターネット上に公開

Now also online: The BfR World Food Safety Almanac

07.06.2022

https://www.bfr.bund.de/en/press_information/2022/21/now_also_online_the_bfr_world_food_safety_almanac-299439.html

世界食品安全デーの開催に際し、ドイツ連邦リスクアセスメント研究所 (BfR) は、新版のハンドブックとなる「世界食品安全年鑑 (World Food Safety Almanac)」をインターネット上に公開した。

2022 年 6 月 7 日、「より安全な食品で健康向上を」をテーマに第 4 回世界食品安全デーが開催された。これを機に、BfR は、「世界食品安全年鑑 (World Food Safety Almanac)」をオンライン化した。BfR のこのオンラインの世界年鑑には、食品・飼料の安全性に関する世界各国の管理体制がまとめられている。近年は、食品の選択がより複雑化していることが特に重要な課題の一つとなっている。BfR の Hensel 所長は「複雑かつグローバルなサプライチェーンを介して供給される食品・飼料についても安全性が確保されなければならない、BfR のこの世界年鑑は、国際的連携を円滑に進めることでこれに大きく貢献できる。」と述べている。

また、既存の複数の手法の統一化を促し、取り組みの重複を防ぐことも、この年鑑の目的の 1 つである。食品・飼料の安全性の確保は、最終的には、各国や組織の緊密な相互協力を必要とする国際的なアプローチでのみ実現可能である。

現時点で、計 37 カ国の情報がこの年鑑に記載されている。このオンラインプロジェクトは、世界の各大陸のより多くの国々に対象が拡大される予定である。オンライン形式であるため、すべての国が自国の情報にアクセスでき、責任を持って定期的な更新を行っている。

BfR の「世界食品安全年鑑」は以下の Web ページで閲覧可能である。

<https://worldfoodsafetyalmanac.bfr.berlin>

国際連合（UN）は、安全な食品の重要性に関する認識を高めるため、2018 年に世界食品安全デーを制定した。世界保健機関（WHO）によると、世界全体では毎年 10 人に 1 人が食品由来疾患に罹患し、死に至る場合もあり、すべての国が影響を受けている。

世界食品安全デーに関する詳細情報は以下の Web ページから入手可能である。

<https://www.who.int/campaigns/world-food-safety-day/2022>

（食品安全情報（微生物）No.14 / 2022（2022.07.06）、No.10 / 2022（2022.05.11）、No.22 / 2021（2021.10.27）、No.15 / 2021（2021.07.21）WHO、No.14 / 2021（2021.07.07）WHO、US FDA、EFSA、BfR、No.13 / 2020（2020.06.24）WHO、EFSA、No.15 / 2019（2019.07.24）EFSA 記事参照）

● ProMED-mail

<https://promedmail.org>

コレラ、下痢、赤痢最新情報（27）

Cholera, diarrhea & dysentery update (27)

7 August 2022

コレラ

国名	報告日	発生場所	期間	患者数	死亡者数
アフガニスタン	7/27	カンダハール県	1週間未満	(下痢)9,500 (この内コレラ)667	7以上
		ヘルマンド県		100以上	20
		ザーボル県		数百	
		ジョウズジャーン県		数千	
		クンドゥーズ県		数千	
		ヘルマンド県 Baghran、ダイクンデ イ県 Nawa Mesh			11
フィリピン	8/2	ダバオ市 Toril	7/15～	(死亡者含む)217	6
カメルーン	8/5	沿岸州、中央州など5 州	2021年10月下旬～	(死亡者含む) 10,322	200
		前回のアウトブレイク(場所不明)	2020年1～8月		66

食品微生物情報

連絡先：安全情報部第二室